



新型コロナウイルスの影響下で、対面でプログラムを提供することができなくなったファシリテーターさんが多くいらっしゃることでしょう。コロナウイルスの影響下の状況では、ビデオカンファレンスや電話での Triple P プログラム提供が可能です。一般的なガイドラインはこちらです。

遠隔でのプログラム提供媒体について

- 電話よりもビデオカンファレンスソフトウェアを使用して実施するほうが親の参加が向上します。
- 使用媒体は、Zoom、Skype、フェイスタイム、または電話が考えられます。

効果的に実施するために

- ファシリテーター、保護者の皆さんにとって、このようなプログラム提供は慣れないことかもしれません。ソフトがプログラム中に機能しているかチェックしたり、問題が起こったときに対応する時間の余裕を取りましょう。
- この非常事態でストレスを感じることは普通のことであることを認め、そのうえでプログラムに参加することでお子さんとの関わりについてのストレスに対応する親の自信が向上するであろうことを伝えます。
- 家庭のプライバシーに関することや著作権の理由から、セッション内容やセッション中の会話の録画・録音は行わないようにお願いします。
- 仲間のファシリテーターたちとのつながりを維持し、お互いをサポートしましょう。
- プログラム参加の際にお子さんが家にいる方には、計画された活動の手順を使って、親がプログラムに参加している間子どもが退屈しないようにするのもよいでしょう。
- 事前にセッションがあることを親にメッセージなどで知らせるとよいでしょう。教材は事前に親に送ります。
- 教材は、事前に親に受け取りに来ていただくか、郵送します。

プログラムの質の維持のために

- マニュアルにあるセッションチェックリストを使って、提供する内容に漏れがないように努めましょう。
- アセスメントは、メールで送ったり、電話で行うことが可能です。守秘義務に気を付けましょう。
- ビデオカンファレンスでのプログラム実施が可能であれば、エクササイズで親がしていることを観察することができます。電話でのセッションの場合は、エクササイズであることを実際に言ってもらって親のスキルを観察します。

子育て手法の紹介

- ビデオカンファレンスの場合は、通常のセッションと同じように手法の練習ができます。電話の場合は、親がする行動を説明してもらいます（例：「子どもの目線に下がって、子どもの方に手を置いて、『コンピューターをやめる時間だよ』と言います」）。
- 遠隔でのプログラム提供では、時間の管理が対面での提供とは異なることもあるでしょう。時間にプレッシャーを感じてセッションの内容を漏らすことがないようにすることが大切です。必要であれば、追加のセッションを設けて内容をカバーする必要があることもあるでしょう。

自己調整の枠組み

- 特に電話での実施では難しいと感じるかもしれませんが、話し合ったり親に自己評価を促すときには自己調整の枠組みを使用しましょう。
- 親またはファシリテーターが不安やストレスを感じていると、アイデアを出すことが難しいこともあります。ファシリテーターがより多くの例を提示したり、促しを早めに出すことで、親のアイデアを促すことができます。

宿題の振り返り

- 可能であれば、メールやメッセージで宿題で使った記録表などを親に事前に送ってもらうとよいでしょう。それが無理な時は、セッション中に親と宿題の振り返りを必ずしましょう。宿題は、親が学んだことを家庭で実践することですから、宿題をしてみてどうだったかを親に教えてもらうことでセッションの進め方の方向性を考えることに役立ちます。